

いのちをつなぐネットワーク 「見つける」「つなげる」「見守る」

市民福祉常任委員会
北九州市視察
5月13・14日

5月13日(火)・14日(水)
の2日間、市民福祉常任委員会の所管事項調査があり、栗山香代子議員が参加しました。
行先は北九州市です。

北九州市は、1963年に門司・小倉・若松・八幡・戸畑の5市が対等合併してできた政令指定都市で、昨年、市政50周年を迎えたそうです。488km²で、100万都市といいますが、平成22年の国勢調査では97万人強、高齢化率は25・1%、年少人口が12・9%。
なお、厚木市は93・83km²、22万4千人で、高齢化率17・9%、年少人口13・7%です。

13日

いのちをつなぐネットワーク

北九州といえば、生活保護を受けられずに「おにぎり食べた」と書き残して亡くなった事件が有名です。それらを踏まえて、住民が孤立することなく、支援が必要な人を福祉につなげることができるよう、地域全体で見守るというものです。

地域全体で困っている人に気づく「見つける」、支援できる人につなげる「つなげる」、できることから、見守りの輪に参画する「見守る」が、キーワード。新たなネットワークを立ち上げるのではなく、既存の仕組みをいかして、住民、関係団体、民間企業、行政が一体になって取り組もうと、平成20年から開始されました。対象は全ての年齢ですが、高齢化率が高いこともあって、高齢者が多くなっています。

子ども・若者応援センター

「YELL」(エール)

ひきこもりなど、社会生活に困難を抱える、おおよそ15〜39歳の人とその家族を対象に、相談・支援をします。運営は民間に委託。キャリアアカウンセラー

のセンター長を始め、臨床心理士や教員資格をもつ職員が4人という、市の施設の中にある小さな場所ですが、開設から3年半での利用者は延べ1万302人にもなるとのこと。

最初の対応はここですが、その後は個人に合わせて、さまざまな関係機関との連携で、対人関係改善や就職へ向かえるように支援をしています。



施設の入り口は狭いが、支援の間口は広い。YELL入り口で。

14日

子育てふれあい交流プラザ

『元気のもり』

小倉駅近くのビルの3階にある3078m²の広さの施設です。

0歳から就学前の親子や妊産婦さんが対象で、子育て・親育ち・地域子育ての3つについての支援機能を持たせています。

プレイゾーンは木製の遊具がたくさん。落書き、絵本、水、音、屋根裏部屋など、たくさんあるのコーナーに分かれています。



計画にあたっては、子育て関係の団体等から意見を聞き、識者を入れてじっくり検討して、子どもの目線を重視して作り上げたとのこと。視察をしながら、何度も、しゃがんで見てみました。大人の目線と子どもの目線は、確かに違います。

プレイゾーンの利用はゼロ歳は無料ですが、大人が200円、小学生以下が100円。

子育て支援では、「初めて抱くのが、わが子だった」という人が多くなり、親の不安や負担の解消に役立っています。

また、地域の子育て支援団体に活動や情報、人材交流の場を提供。



特製モンチッチと双子の子どもたちの前で。所長の説明を聞く。

~~~~~

今回の視察では、高齢者等、若者、子どもと、対象は違っても、共通するのは「人間関係」です。家族、友人・知人、近所など、様々な関係の中で自然に学び、助け合っているのだと思うのですが、それがうまくいかないうちに社会になっているのを感じています。

「自助」「共助」が強調されています。市民一人ひとりができることは何か、行政がすべきことは何か、いろいろな角度から考える必要があるのではないのでしょうか。